

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 37 号

平成11年3月3日発行
編集者 川添一郎
発行 三水会(北里大学
水産学部同窓会)
事務局 〒246-0031 神奈川県横浜
市瀬谷区瀬谷5-22-1
☎045-303-3135
振替口座 第一勧業銀行
大手町支店
008-1182388



昨今の水産学部の学生気質について

(学生課長 山森邦夫先生)

橘高二郎先生

平成十年度日本水産学会賞功績賞受賞

(学部長 神谷久男先生)

水産学部職場紹介

(18期生 尼子晃司)

第26回漁火祭開催報告

(漁火祭実行委員長 斎藤正明)

三水会北海道親睦会に参加して

(18期生 島崎織人)

大物釣ったぞ、見ておくれ

(9期生 山尾修司)

見たい、知りたい、話したい

- ・平成11年度三水会定期総会について
- ・住所不明会員
- ・OB会のお知らせ
- ・訃報
- ・親睦会のお知らせ
- ・事務局からのお知らせ
- ・編集後記

昨今の水産学部の学生気質について

学生課長 山森 邦夫

一月下旬に三水会会報編集者の川添一郎氏から表題の原稿依頼があった。気軽に引き受けたものの、あつという間に締切りが過ぎ、何を書くべきか悩んでいる内にさらに時は流れ、締切りを大幅に超過したため、川添氏を窮地に追い込んでしまった。申し訳ない。

昨今を語るためには、昔を思い出さねばならない。私が北里大学水産学部に着任したのは昭和五十一年三月だった。丁度一期生が卒業する直前であり、卒業式に出席できたことを記憶している。ところで卒業生が何期生であるかという期数と卒業生との関係を私は次のように考案している。卒業生から五十を引いた数が期数になる。例えば、昭和五十四年三月の卒業生は $54 - 50 = 4$ で4期生という具合。昭和63年までであるから、平成の卒業生には新たに式を考案した。すなわち、卒業生に13を加えた数が期数である。本年三月の卒業生は $11 + 13 = 24$ で、24期生になる。

私はもうすぐ24回も卒業生を見送つ

たことになるのだ。通常の学生は三陸で3年間を過ごすわけだから、私はその8倍の年月を三陸で生活したことになる。確かに三陸で長い時間を過ごしている。昔の学生に比べて最近の学生

気質はどんなふうに変わったか、あるいは変わらなかつたか、というようなことを語るのに適した資格はあるようだ。しかし、学生気質を語ることは、簡単なことではない。感ずるままに語ると、「昔の学生の方が良かつた。今

の学生はなつていいない」式のいつの世代にも繰り返される紋切り型のおしゃべりに終わり、お叱りをいただくことになるおそれもある。そこで、表題から多少それが、学生の生活環境の変化を語りながら、心情の変化にもふれてみたい。

道路環境は大幅に改善された。昔は大平から崎浜方向と分かれて大学方面に向かう林道は狭くて対向車との出会いが恐怖だった。それが平成3年夏に幅広の快適な一車線道路に生まれ変わっ

た。この年の秋に三陸キャンパスで日本水産学会秋季大会が開催され、全国から千名近い会員が集つた。このイベント開催が県に道路拡張工事を決心させたという。平成4年3月には悪名高い三陸トンネルに代わって全長6.5kmの新三陸トンネルが出現した。この道路は将来は仙台まで延びる自動車専用道路の一部である。トンネル内部に入ると首都高速のトンネル内を走行している気分になれる。今年3月にはこの道路が大船渡市猪川まで延長される。三陸・大船渡間がますます近くなった。

学生の住環境も変化した。以前の学生アパートは家賃が安いが風呂もトイレも共同というのが普通であった。ところが個室内に風呂もトイレも備えた高級タイプのアパートが人気となり、新築は全てこのタイプである。現在学生の半数弱は旧式の安いアパートに入居するが、残り半数は家賃の高い個室タイプを選ぶ。1割強の額生は大船渡市などの高級アパートから車通学している。大船渡には食品や日曜大工の大型店や専門店があり、商品が豊富でデパートに近い店もある。コンビニも飲食店も多いので都会と変わらない生活ができる。バブルがはじけたといってよいが恐れだつた。それが平成3年夏に

成した。吉浜湾を見下ろす学生食堂ではホテル顔負けの眺望を楽しむことができる。学生ホールでは2~3年生が休憩時間や放課後にリラックスした時間を楽しむことができる。講義室は広く明るくエアコン付きで年中快適である。階段教室なので黒板も見やすく、カーテンやスクリーンは電動なのでO.H.P.、スライド、ビデオなどの視聴覚機器が多用される。平成10年8月にはマリンホール前の屋外コンクリート水槽が取り壊され、新たに図書館下の元駐車場にFRP製の屋外水槽が新設された。マリンホール前の水槽跡地は駐車場になり、学生の車であふれている。もはや学生はマリンホール無しの生活など想像できないだろう。

水産学部の女子学生が最近急増している。卒業時の女子学生の割合でみると、1期生は例外的に10.4%と高かったものの、2期生以降20期生に至るまでに「一軒台」になることはなく、1期生から20期生までの平均値も5.3%にすぎなかつた。女子学生は20人に一人しかいないのだから、研究室に卒論の女子学生が来ない年もしばしばである。ところが、21期生で14.1%と跳ね上がり以降も徐々に増加し、24期生は22.8%になつた。現1年生が卒業する平成14年には33.7%になる見込である。いずれ男女半々になるのだ

ろうか。女子学生の増加は、女子高生の進学志望校が短大や専門学校から4年生大学へ全国的に移行していることの反映である。水産学部はもはや無骨な男子学生の砦ではなくた。男女学生間の会話も、ことさら性を意識する必要のない自然体の会話の印象を受けた。

卒業アルバムというのを記憶だろうか。小学校、中学校、高等学校では卒業記念に必ず発行されるあのアルバムのことだ。私の手元に水産学部6期生の卒業記念アルバムがある。水産学部の全景、教員写真に続き、研究室別のコーナーでは両開きのスペースいっぱいに研究室ごとの集合写真や個人別顔写真が趣向を凝らした配置で掲載されている。文化会や体育会所属の各クラブも活動の一端を集合写真やスナップ写真で表現している。卒業式や謝恩会の写真もある。見ていてなかなか楽しいものだが、卒業アルバムの発行がこの年以後途絶えてしまった。なぜか。アルバム制作には多大の労力が伴う。普通は写真部などの音頭取りによりアルバム制作委員会が組織され、各委員会に集合をかけたり、印刷会社と交渉したり、校正をしたりで忙しくなる。卒論と同時並行だからなおさら大変になる。労力だけではなく、費用もかかる。

このアルバムは卒業生から贈られたものだが、制作費は当時でも一部6千円位したと思う。アルバムが完成しても、委員は感謝されるどころか、高いなどと文句を言われたかも知れない。カメラが普及して写真そのものが珍しくなくなり、したがつてアルバムとして記録を残す意味が薄れたという時代背景もあるだろう。以上のようなことがアルバム制作委員会が組織されなくなつた理由と思われる。しかし、私はアルバム制作の伝統が途絶えることに忍びなかつた。研究室の卒論の学生を激励して何かことあるごとに写真を撮らせた。そして卒業式が近づくと選び抜いた写真をサービス版で大量にコピーして空のアルバムに貼つた。研究室専用の卒業アルバムを制作したのである。写真を50枚以上使用したにもかかわらず、一部当たりの制作費は2千円程度で済んだ。この研究室専用アルバムは3年間ほど続いたが、なぜか、その後途絶えた。平成3年からは卒業ビデオを作成した。ビデオカメラで魚類の水中生態を観察・記録する卒業研究グループに、研究室のイベント時にビデオ撮影を頼んでおいた。そして卒業式が近づくと、撮りためたテープを2時間テレビに編集して研究室専用卒業記念ビデオアルバムとして完成させた。卒業生各人に配布するには、マスターとデータ

からダビングすれば良いから、費用は一人当たり3百円程度で済んだ。この企画も5年間続いた後、なぜか途絶えた。アルバム制作のような企画には労力が必要である。組織の中の誰かが労力を提供しなければ、企画は達成されないが、労力提供を惜しむ風潮が強まるようで将来が危ぶまれる。個人主義が進んできたといえよう。悪くいえば無責任主義になつた。政治家や政府高官や企業や銀行の役員が失敗しても反省しない無責任な態度をみて、若い人間に失望しているのかも知れない。しかし、失敗は誰かが尻拭いする必要がある。尻拭いでも買つてでる人が居て欲しい。

生物学研究室の助教授を務めてくれたといえよう。若い会員が少ないのが気になる。若い会員の活躍を期待する。写真は5年前の研究室での飲み会の記念である。私の右でコニャックの瓶を持ついる浅野昌光氏は平成5年10月から同9年3月までの3年半、魚類生理学研究室の助教授を務めてくれた。現在は宮崎県立看護大学の教授である。



平成十年度日本水産学会 賞功績賞受賞のご報告

水産学部長 神谷 久男

先生の研究姿勢は卒業生諸氏がよく知るところです。まさに先生の研究人生は、水産学会賞功績賞そのものであると感嘆するものです。

平成六年からは東京理科大学総合研究所教授として、また同付属海洋生物

研究施設長として一層研究に没頭されている毎日です。ご受賞を共にお祝いいたしましたく、三陸へお越しいただくようにお願い申し上げました。2月中に先程から日程をお知らせいただくことになりました。この喜ばしいニュースを同窓生諸氏と分け合うべくご報告いたします。

橋高先生は昭和三年のお生まれで、京都府水産試験場、神戸大学教養学部で研究を続けられた後に、クルマエビ養殖株式会社研究課長に就任されたことが甲殻類との運命的な出会いとなりました。その後米国フロリダ州のエビ生産会社の研究部長を四年間にわたり務められて、昭和四九年に水産学部教授として帰国されました。平成六年に定年退職されて名誉教授になられるまでの間、四年間水産学部長の重責を務められました。

マイワシの生態研究で農学博士を授与されてから、クルマエビ、ロブスターなど甲殻類の餌料・生態・成熟・初期生活に関する多くのご研究、ならびに

FAX FAX ○一九二一四四一一二五
会費 五〇〇〇円(記念品代を含む)
連絡先 水産学部学生課「橋高一郎先生の受賞を祝う会」係
「橋高一郎先生の日本水産学会賞功績賞受賞を祝う会」「受賞記念講演会」
日時 平成十一年四月(近日決定)
場所 北里大学水産学部三陸研修所
会費 五〇〇〇円(記念品代を含む)

水産学部職場紹介

尼子 晃司(18期生)

同窓生の皆様、お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。

今年の三陸は例年になく暖冬のせいが雪が少なく、暖かい日々が続いていると思います。

さて、今回は事務局の方より卒業生の立場で職場紹介をというご依頼がありましたので、この機会に自己紹介な

らびに近況報告を兼ねて簡単ではあり

ますがペンをとさせていただきたいと

思います。

私は、平成5年に水産学部を卒業後、衛生学部事務室に入職し、3年半総務課で勤務した後、水産学部に配置換えとなり今日に至っています。入職当初は医療衛生学部の開設準備の時期に当たり、衛生学部での通常常絹を終えた後、開設準備業務を行うというハードな体験をいたしました。

学生時代には無論気づかなかつたことですが事務室業務の大変さをこの時、痛感いたしました。

その後、現在の部署に配属になった

私自身、意外とすんなりと受け込めたような気がします。

現在、私を含めて水産学部卒業生が4名、各々の事務室の場で活躍しています。

三陸にお越しの際は気軽に声をかけいただきたいと思います。

ところで、水産学部は平成12年度に向けた学部改組、大学院の新たな発足を予定しています。文部省への申請書類の作成など教務課では日々、申請業務に追われる毎日が続き、何かと気ぜわしいのが実情です。

また、図書館ではパソコンでの文献情報の管理や毎年発行している業績集のとりまとめなどに追われています。水産学の文献情報が北里大学水産学部図書館のホームページ上に載せてありますので必要な方は是非ご覧下さい。

なお、卒業生に対して1枚30円+送料で文献コピーのサービス提供を行っています。詳しくはメールアドレスinfo@nmet.ne.jpまたはTEL01992-44-3941、FAX0192-44-3271までお気軽にお問い合わせ下さい。

次に、学生の就職活動に目を向けると、昨今の就職状況の現状を踏まえ、1月26、27、28日の3日間を通して47社、67名の企業を迎えて行われま

た。この会には卒業生も参加するなど今日の不景気を反映する形となりました。

就職担当者としては頭の痛いところではないでしょうか。

次に大学周辺の近況を報告したいと

思います。

三陸は、去年の秋に大雨による影響で道路が崩れた箇所があり現在、復旧工事が急ピッチで行われています。私

が住んでいる教職員住宅から崎浜漁港に通じる道路も崩れ、多少なりとも交通の便に支障をきたしております。

また、越喜来半島西部の大部分が北里鳥獣保護区として狩猟が約30年にわたり全面的に禁止されていましたが、近年のニホンシカの急増により農林業に多大な被害が発生したため狩猟区域が大幅に拡大し、これによる事故の発生が心配されるているところです。

学生諸君には掲示により注意を促したり、立ち入り禁止の場所にはスロープを張るなどして対応しているところです。

また、大船渡市あるいは三陸町内にはコンビニエンスストアや本屋などが増加し、将来的には三陸縦貫道の開通により、ますます学生諸君のみならず教職員の日常生活にも選択の幅がつていくものと期待されます。

以上、事務室の紹介および三陸の現況をかいづまんでお知らせいたしました。

終わりに三水会ならびに会員諸兄の益々のご発展とご活躍をお祈りいたします。



水産学部事務局にて

たゲームやアブノーマルテスト、くじ文句大会、宝くじ、軽音楽部によるライブなどが行われました。

17日は、開会式途中から激しい雨も降り始め、大漁踊りはその大雨の中で街を回ることになりました。模擬店は屋外が使用不能となつたため、ピロティーで調理し、屋内で販売するという形式をとり、模擬店出店団体にとつては大変な手間となりました。この日はジャグリング部による公演も予定されていましたが、悪天候のため中止になりました。

体育館による野外ライブは軽音楽部による野外ライブは体育館に変更されましたが、大勢の観客が集まりました。同じく、体育館では演劇部による公演が行われ、多くの観客を楽しませていました。マリンホール2階では美術部と実行委員会との合同企画「デザインコンテスト」が行われ、通りかかる人の目を楽しませいました。第1講義室では、地元の方々の善意で集められた品物によるバザーやフリーマーケットを開催しました。

第2講義室ではテレビゲーム大会、又は、第4講義室ではガイアシンフォニーの上映をしました。

18日は、朝から台風直撃のため、予定されていた野外での演武は中止となり、早食い大会や三陸版筋肉番付は屋内に移行しました。第2校舎では手作り教室などを用意した小学生企画を催

し、大勢の子供たちが集まりました。また、第4校舎では野村教授による「日常に忍び寄る病原体」と題された講演会を行い、参加者からは「ためになつた」という言葉を多くいただきました。他にも、タレント「MANZA I-C」さんによるコントなどが行われ、夕方からは体育館において後夜祭が始まり、体育館正面の高価なガラスが割れるほど盛り上がりました。

98年度の漁火祭も無事に終えることができました。これも、ひとえに、地元の方々をはじめ、皆様のご協力の賜物がございました。心から厚く御礼申し上げます。



漁火祭軽音楽部ライブ

三水会北海道親睦会に参加して

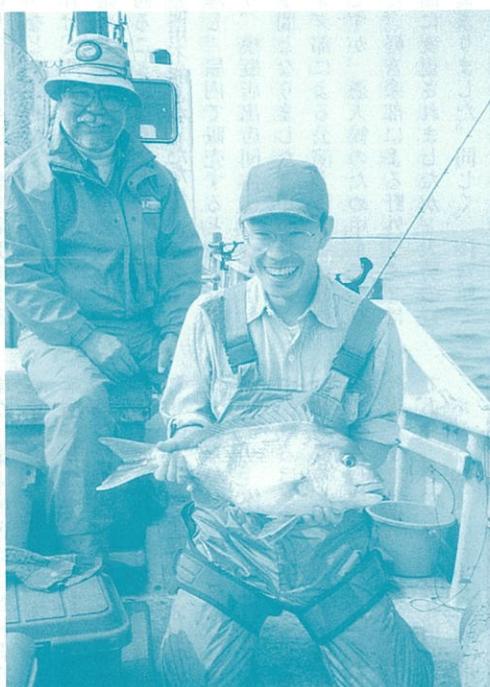
18期生 島崎 織人

平成11年1月23日、北海道親睦会は、例年になく雪が多い厳冬期の札幌にて開催されました。会場に入る前、18期生の私はお逢いする方々のほとんどが先輩方であるという緊張感を持つていました。中を覗くと、怖そうなおじさん、優しそうなお姉さんがいらっしゃいました。程なく乾杯の声がかかり、幹事の方から橋高先生からのメッセージが紹介されました。お忙しい中わざわざ駆けつけて下さった斎藤先生の到着を待ちまして自己紹介、近況報告が始まりました。中には地球の裏側で北里1期生の方と会ったという報告もあり、世界に羽ばたく北里を実感しました。私自身も思わず心から先輩諸氏のお世話になっていたことを知り驚きました。出席者のほとんどの方が、最近は三陸に足を運んでおられないようで、会場からは最近の三陸事情を報告する声が聞こえていました。親睦会も終盤に入った頃、放浪歌の歌詞が回り始め、赤木氏の口上により水産放浪歌が会場に響きわたりました。久しぶりに大声を出す方が多いためか、はじめ

はさざ波ほどだつた声も2番に入つた頃には波涛へと変わっていました。最後に、遠路はるばるお越しいただいた斎藤博司先生、三水会会長の長谷川一敏氏、ならびに本会企画立案し開催に骨を折ってくださった柳沢明美氏、赤木秀樹氏に感謝してこの文を終わらせていただきます。ありがとうございます。



三水会北海道親睦会



山尾修司氏とマダイ

大物釣つたぞ、見ておくれ

35号の会報でご案内いたしました、大物を釣り上げた方を募集致しましたところ、9期生の山尾修司さんが釣り上げましたマダイに大物賞をお送りすることに致しました。昨年5月、網代にて釣り上げたそうです。体重は約3kgだそうです。記念品をお送り致します。

この企画は本年度も致しますので、多数の応募をお待ちしております。応募は三水会事務局までお願い致します。
『三水会事務局』
〒246-0031
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1
電話・FAX
045-303-3135

この企画は本年度も致しますので、多数の応募をお待ちしております。応募は三水会事務局までお願い致します。
『三水会事務局』
〒246-0031
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1
電話・FAX
045-303-3135

見たい、知りたい、 話したい

の場合も同額)

内容：午後3時～午後4時（2F大会議室）

松浦先生・児玉先生からの近況報告

午後4時～

（1F職員食堂）

申込み：FAX又は郵送にて、4月16日(金)までに左

記までお申し込み下さい。

懇親会

申込み：FAX又は郵送にて、4月16日(金)までに左

記までお申し込み下さい。

西尾 徹（14期）

TEL・FAX 048-481-7852

〒335-0002 埼玉県蕨市塚越3-10-31-201

2、K、U、ランフォート会

（水産食品化学研究室OB会）開催のお知らせ

1975年4月、故土屋靖彦先生（食品化学研究

室）のもとに、第一回K、U、ランフォート会が発

足されてから、今まで24回を迎える事となりま

した。ご承知のとおり今年は20世紀最後の会となり

ます。そこで故土屋先生の言葉をお借りし「学生生

活最後の1年間を一つの研究室で卒論により組みな

がら互いに切磋琢磨しあつた仲間が学窓を離れた後

も世代を越えて、時世について色々と自由に語り合

うための発表の場を持つ事は大変重要である」以上

をK、U、ランフォート会の趣旨として21世紀につ

なげていきたいと思います。

会員皆様奮ってのご参加をお待ちしております。

開催日時 平成11年5月15日(土)PM6:30～

開催場所 レストラン「アラスカ」

千代田区一ツ橋1-1-1

担当 飯塚 裕之 他

親睦会のお知らせ

日時：平成11年4月24日（土）午後3時より

場所：白金校舎 北里本館

会費：一〇、〇〇〇円（記念品代込、夫婦・子連れ

3、野村節三先生退職記念会および水産微生物学研究室OB会開催のお知らせ

水産微生物学研究室教授野村先生は、昭和51年より24年の永きにわたりご研究に従事されると共に、

学生のご指導に情熱を傾けて来られましたが、平成

11年3月末をもつて定年退職を迎えられます。

つきましては、先生のこれまでのご指導とご尽力に感謝申し上たく、水産微生物学研究室とOB会の

共催により下記の通り退職記念会を開催いたします。

OBの皆様には、お誘いの上是非ともご参加下さい。

つきましては、先生のこれまでのご指導とご尽力に感謝申し上たく、水産微生物学研究室とOB会の

共催により下記の通り退職記念会を開催いたします。

OBの皆様には、お誘いの上是非ともご参加下さい。

日時：平成11年6月12日(土)午後2時より

会場：北里大学薬学部C号館第6講義室

会費：一〇、〇〇〇円（記念品代を含む）

同伴者三、〇〇〇円（子供は無料）

尚、今回不参加でも記念品代のみご厚志頂ければ幸

いです。（三、〇〇〇円以上）

また、会費等納入は、郵便振替でお願い致します。

口座番号 00510-3-44731

加入者名 水産微生物学研究室OB会

問い合わせ先 緒方武比古助教授

TEL 0192-44-1928

FAX 0192-44-2125

佐藤敏行（第3期）

TEL・FAX 0256-38-3227

恒例の親睦会を開催致します。本年度は「九十九里浜片貝海岸での地曳網」の企画を致しております。

ご家族を含め、多数の方々の参加をお待ちしております。参加を希望される方は追って詳細をお知らせ致します。

1、開催日 平成11年7月24日（土曜日）

（受付開始、午前9時30分）

2、集合場所 九十九里浜片貝海岸 民宿まるに

3、会費 大人二、〇〇〇円 子供一、〇〇〇円

参加申し込み方法 三水会事務局に電話またはFA

Xにてお願い申し上げます。

《三水会事務局》

〒246-0031 横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL・FAX 045-303-3135

《民宿まるに》

海の家・0475-76-6911

自宅・0475-76-2069

住所不明会員

次の会員の方々の現住所が不明となつております。

ご存じの方は事務局までにご連絡下さい。お知らせ

下さった方には、お礼として粗品を差し上げます。

11期から20期までの方を掲載させて戴きます。

増殖学科

（11期）佐々木東吾・真木長彰

（12期）片岡忠勝・鎌倉正幸・川上高弘・木原英暉

衣笠智和・品田 隆・鷗村一三・田中善智
山本敏夫・土佐林創・松原武司・森 秀樹

（13期）遠藤康之・佐久間 日良・中島克昌

平野英典

（14期）中本裕之・浜田尚也・原田展也・池田 保

金丸一民

計報のお知らせ

加藤（旧姓澤田）雅子さん（4期生）が平成8年10月に、谷口和之さん（19期生）が平成9年12月

（15期）青木 滋・小野 拓・奥田賢治・長澤俊弥
（16期）岡井太郎・栗原裕幸・蛭田 有・松井孝夫
（17期）榎木義浩・相澤光彦・島田依明・尾崎利忠
鈴木昇一・松岡正敏・上柏恒一・清水康弘

（18期）上野周二・金子 力・金谷夏広
塩野谷高司・玉谷康幸・山田 滋

（19期）小野田 進・野原由弘・富澤 寛
（20期）高野宣行

食品学科
（11期）古作和正・中橋正継・増井正哉
（12期）秋葉隆宏・佐野修一・湊 文男・山口智章
（13期）石川方敏・今村秀昭・岡本浩一郎
鎌田晶子・金沢正裕・國安 浩・坂下雅人

竹原千恵・久保田健司・古賀隆一・吉田慎吾

（14期）山内 圭・山口 均・祖母井 陽
鈴木真時
（15期）高尾太郎・森田 聰
（16期）稻生 巧・須田成樹・今野雅充・南谷達治
宿田尚男
（17期）伊勢史朗・野沢博和・紺屋貴弘・小田雅史
永井正樹・見戸周治
（18期）板本健児・久保田喜一・金子 隆・三村洋介
宮本一人

（19期）岡田昌士・龟井 光・大和田勝司
（20期）鹿島一茂・赤瀬道徳・曾我部有司
岡田晶子・深谷敏光・前平 航（敬称略）

編集後記
第37号の会報が遅れましたことをお詫び申し上げます。
研究室OB会が次々と発足しています。同窓会やOB会をやりたいが、どうも中心になつてやるのはいま一つと思っている会員の皆様に対して協力を惜しみませんので三水会事務局までお知らせください。
3月17日は卒業式が開催されます。今年の卒業生は24期です。現在23期までの会員数は三、八〇四名です。

事務局からのお知らせ

住所不明の会員が年々増加の傾向にあり、名簿管理が難しくなっています。勤務先および各地域の役所等への調査、問い合わせは、個人のプライバシーを犯すことになるので、出来なくなりました。転勤や移転の際は三水会事務局（TEL&FAX 045-303-3135）まで、必ずご一報下さい。

尚、長期間住所不明の会員の場合、三水会よりの郵便物の発送を控えさせて頂くことがあります。住所不明の会員を会報にてお知らせ致しますので、ご一報下さい。

に、岡部博史さん（18期生）が平成10年1月に逝去了されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。